

私が野球をできる意義

中学1年 柳浦 俊哉

大リーグで大谷翔平選手が投打の二刀流で活躍されている。私も北九州のボーイズリーグに所属していて、野球と勉強の二刀流を目標に努力を続けている。

私が野球を始めたのは約三年前のコロナ渦で学校の授業がオンラインになり、父から「キャプテン」というまんがが面白いからと薦められて読んだ事と、一緒にキャッチボールを始めたことがきっかけだった。野球は守備によってグローブが違ってくる。ボーイズでは基本一人一つのポジションを守るのではなく何ヶ所ものポジションを守るのでいくつかのグローブが必要になる。ユニフォームも替えだけでなく練習着、練習試合用公式試合用とあり、それに伴う付属物がある。

野球を始めて分かった事は野球はお金がかかるという事だ。私が野球に行く時は父か母が送迎してくれる。練習試合や公式戦になると車で一時間以上かかる球場がほとんどで集合時間も早い。それ以外にもお茶の準備、汚れたユニフォームの洗濯等道具以外でも何かと費用がかかる。父と母がいなければ私の野球は成り立っていない

のだ。

今年も夏の甲子園が始まった。彼らも勉強と両立し、猛暑の中戦い抜いて夢の舞台のキップを手に入れたのだろう。だがその陰には保護者の協力があるということだ。

もう一つ、今年の甲子園が開催できるのは今の日本が平和だからだ。ロシアとウクライナの戦いは一年以上になっている。ウクライナの女性や子供、若い人達は戦いから逃れる為に自国を離れ慣れない異国の地で苦勞しながら生活している。ウクライナ以外にも争いがあっている国は沢山ある。

他国で戦争があっている様にもし日本で同じ状況だったら甲子園どころか私の野球もできていないだろうし、それ以外に安定した生活も送れていないだろう。甲子園では毎年八月十五日の終戦の日の正午に全員で黙とうをする。戦争中は野球ができなかった時もあり、選手も戦争に駆り出され亡くなった人も多い。野球がしたくても二度とできなかったという事はどんなに無念だっただろう。だからこそ戦争を二度としてはならないという思いを新たにすると共に今ある日常に感謝をしなければならない。

今年の甲子園の予選は常連校が次々と敗退するという波乱に満ち

た戦いだっただ。いつも同じ顔ぶれよりもかえっておもしろい戦いになりそうだ。

私が野球ができる事、私をここまで健康に育ててくれた両親、そして日本の平和に感謝しながら今年もテレビで甲子園を観戦し、彼らに負けない様練習に励もうと思う。